

令和5年(2023年)10月15日

吹田市千里山・佐井寺障がい者相談支援センター

吹田市地域自立支援協議会地域会議(千里山・佐井寺地域)開催のご報告

錦秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は地域の障がい福祉にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

吹田市では、障がい者等が自立し安心して日常生活や社会生活を営むことができる地域社会の実現に向け、障がい者等への包括的な支援ネットワークの充実を図ることを目的に地域自立支援協議会が設置されております。また、協議会の構成分野の1つにこの度、開催報告をさせていただきます「地域会議」が位置付けられています。

今回は「障がい者等の読書支援を考える」をテーマに、吹田市千里山・佐井寺図書館館長をお招きして、「図書館の障がい者サービスについて」と題してご講演いただきました。障がいに対応した本や資料、支援機器を実際に使用して見せていただきながらの講演で「とてもわかりやすかった。」「はじめて知った。」とご好評いただきました。

「障がい等がある人の読書支援を考える」アンケートには、74名と多くの方が回答してくださいました。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございます。障がい等がある人の実情やニーズと共にいくつかの課題が明らかになりました。アンケート調査結果に基づき、地域会議では、①図書館の障がい者サービスをより多くの人に知っていただくためにできそうなこと②障がい等のある人が読書を楽しめるような工夫等について、アイデアを出し合いました。

地域会議のまとめと参加者アンケートまとめを別紙にて作成いたしました。障がい等がある人もない人も同じように図書館を利用でき、読書をしたい人には楽しむ機会が得られるように、障がい児・者等に合った必要な工夫や調整などを行うことが「合理的配慮」です。

吹田市立図書館はその歩みをはじめていますが、その継続には地域の支えが大きな力になります。「障がい者サービスを知っている人が増えること」「障がい等がある人と図書館とを繋いでくれる人が増えること」「一緒に考えてくれる人が増えること」が大切だと考えています。障がい等がある人の読書支援についても引き続き、地域で様々な関係を築きながら考えていきたいと思っております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

吹田市千里山・佐井寺障がい者相談支援センター

吹田市千里山東2-20-4

TEL:06-6170-1785

担当者 仁木恵美



図書館の障がい者サービス等「知ってほしいこと、良いところ」

図書館の障がい者サービスがたくさんあった。実際にみて、触れてほしい。

朗読ともの会では年1回当事者の方との交流会がある。

障がい者事業所向け図書館体験ツアーがある。ネットで借りたい本を予約できる。

まちなかりビング北千里ではテラス席で本が読める。図書館によって雰囲気異なる。健都ライブラリーは子どもが多く、にぎわっていて、騒がしさにやや寛容な雰囲気がある。

音訳ボランティアの講座がある。対面朗読ボランティアをする中で知らない本との出会いがある。阪大病院に拡大鏡がある。

図書館フレンズというボランティアがあり、子どもたちの読書室の装飾などをお手伝いしてくれている。現在50名ほどの登録がある。図書館フレンズ（ボランティア団体）を募っていることを知ってほしい。利用しやすそうなサピエ図書館のことを知ってほしい。

図書館の障がい者サービス等「利用しづらいところ、気になるところ」

来館されない方にどのように情報を届けばよいか難しい。

発達障がい等により声のボリュームの調整が難しい方は図書館の利用が難しく、家族や支援者も周りに気を使ってしまうことが多いとの声を聞く。

図書館は、静かに読む場所なのか、本を楽しむ居場所なのか。

大人の障がい者が本に触れる機会を得られていない点は、金銭的な問題もかかわっているように思う。一般の方も障がい者も結局は子どもの頃の読書環境に大きく左右されていると感じる。

視覚障がいのある方にとっては、話題の新作が点訳されたり、音読化されるのに時間がかかっている。一般の本好きの方とのタイムラグを生んでしまう。

読書バリアフリー法は視覚障がい者児が基本で広がりを見せているが、知的障がい児者や肢体不自由児者への配慮へはまだ広がりを見せていない。

障害者向けの設備がない、利用したいという方はいても活用できていない。

障害者向けの本が少ないと思う。

どうしても「困っている人の支援」になってしまいがちであり、楽しみを広げていけるように考えていきたい。

① ニーズや課題

地域の人と同じように読書（余暇）を楽しむ選択肢があること

- 子どもの時に図書館を利用したり、本を身近に感じる経験ができること
- 困りごとの支援だけではなく、読書の楽しさが広がる機会づくり



アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

- 大学の多い行政なので大学の協力を得てコラボしてはどうか。
- 障がい者だけでなく、子どもも楽しいイベントをしてみてもどうか
- 紙芝居などのイベントでアピール→楽しいイベントで知ってもらう
- みてさわって楽しむイベント→いろんところであればよいのではないか
- サークル等があればよいのではないか。
- 支援学校や支援学級の懇談会で伝えていく
- こども未来館などは子どもが集まるので、図書を置いて活用する
- 障がい児者が楽しめる本（さわる本など）を増やしていく

② ニーズや課題

読書や読み聞かせの時に、声をあげたり、会話をしたり、立ち歩いても良い環境がほしい。

- 静かな環境で読書をしたい人との兼ね合い。
- 空間的余裕、防音設備など環境面の整備
- 読書に支援が必要な人や障がいへの理解



アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

- 体験ツアーの事業所への案内、個人向けもできればよりよいのではないか。
- 当事者が図書館がいきにくい場合があるのに、まずは人が少ない時間を設定して、図書館にいきやすい工夫をする。
- 図書館の空間づくり（飲食可など）にする。
- 知的障がい児者が声を出しても読める、読んであげられる読書部屋や多少騒いでも良い環境を造る。
- 読み聞かせをしたり、ご本人が声に出して読む際に、周囲を気にせずにご過ごせるよう、個室ブースや一般利用とは別フロアで部屋を用意するなどの環境整備があれば良い。

③ ニーズや課題

大人の障がい者向けの読み聞かせや映像をみながら朗読するサービスがほしい訪問朗読をしてほしい。

- マルチメディアデージーやLLブック等の幅広い活用やその他の方策



アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

- 大阪市のLLブックセミナー「知的障がい者が読書を楽しむための代読ボランティアの活動」を市民に紹介し呼びかけるような取り組みができるとよい。
- 漢字の読み方だけではなく、意味がわかりやすいように、難しい単語や言い回しには注釈などがあると読みやすい。



④ ニーズや課題

**対面朗読について
訪問朗読をしてほしい。外出が難しい。家にあるものを読んでほしい。**

→対面朗読サービスは、館内でのサービスであること

アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

代読ボランティア養成講座のような取り組みが身近に普及して支援者が増えると良い。

ヘルパー等支援者がいても、外出困難な方がいる。PCの使用が難しい人もいることを想定したサービスを考える

⑤ ニーズや課題

図書館の障がい者サービスを知らなかった。

→ニーズが生まれる以前の課題。当事者にどのようにサービス情報を届けるか。

アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

朗読ともの会では年1回当事者の方との交流会がある。その中で情報を共有することは可能であると思う。

老人会で話をしたり、広める方法はあるような気がする。

アピール必要→市報にのせる、事業所でチラシを配る・掲示する、市役所にポスター掲示

紙芝居などのイベントでアピール→楽しいイベントで知ってもらう

本以外の資料を知ってもらえるようにしていく。

1枚物で説明できる簡単なチラシがあればよい。各戸に配布する

自治会等で何らかの形で紹介できたら

眼科でリーディングトラックを紹介してもらったことがある。

Drからも発信してもらえるとよい

サービス情報を掲載したチラシを事業所に掲示するなど各事業所単位で知ってもらう取り組みができればよい

講習会の実施

移動図書館でPRしてもらえたら

図書館や市職員がお祭りやイベントの時に来て、説明する機会があれば知ることができる

支援学校や支援学級の懇談会で伝えていく

⑥ ニーズや課題

図書館に行きやすくしてほしい、アクセス方法がわからない。

→アクセス方法の案内の見直し

アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

アクセス方法を障害等がある人にわかりやすく知らせる

バスの本数が増えると行きやすくなる図書館もある。



⑦ ニーズや課題

図書館ボランティアが増えてほしいと

→関心や機会の増進、具体的にボランティア内容を知ってもらうこと、専門的な内容もあること

アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

講習会の実施、支援者が分かるワッペン（名札みたいな）などの作成。
点訳や朗読のボランティア活動の発信と担い手の養成講座の開催。

⑧ ニーズや課題

安心して図書館が利用できるようにしてほしい

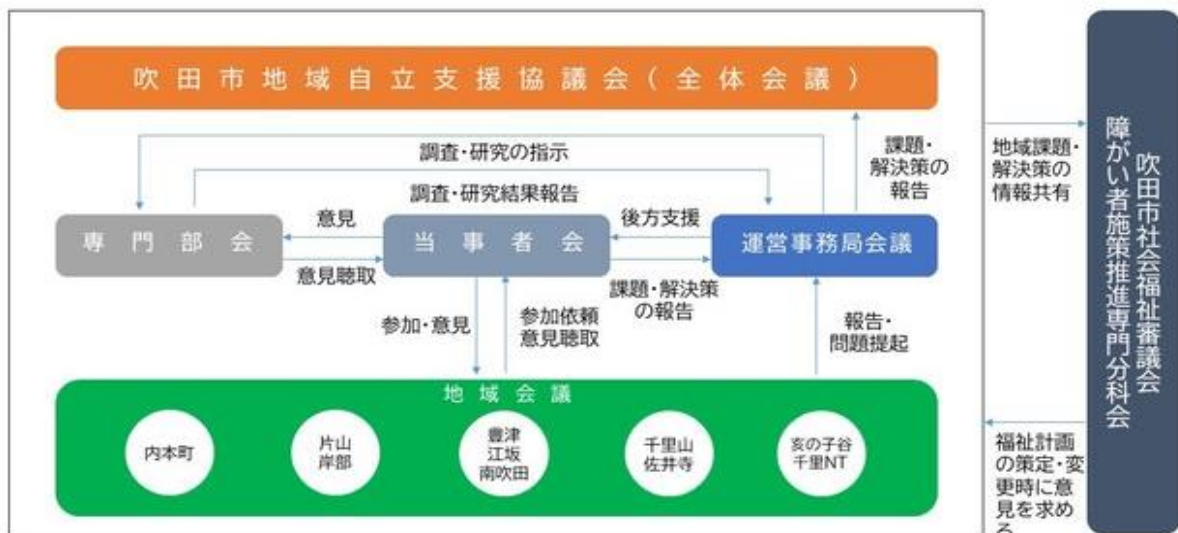
→障がい者のある人が一人で行っても不安がないように。窓口での聞き取りや案内

アンケートやグループワークで出されたアイデアなど

個々の障がいに応じたサポート方法を用いられるとよい
図書館で誰でも読みやすい館内案内のチラシも作成をしているので、利用してもらいたい。
ことばの意味がわかるように案内すること
当事者が図書館が行きにくい場合があるのに、まずは人が少ない時間を設定して、図書館にいきやすい工夫をする
図書館の本を電子書籍化したら探しやすい（学校でタブレット授業があるので）
本台に本を乗せて自動でめくれるようにする。本の温かさを忘れないようにしたい。

アンケートおよび、地域会議への参加にご協力いただき、ありがとうございました。

今回の地域会議のまとめを運営事務局会議と千里山・佐井寺図書館に報告し、更に課題整理しながら、地域の中で解決にむけてすすめていけたらと思います。今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。



参加者アンケートのまとめ (回答者20名)

「図書館の障がい者サービス」について (講演)

よくわかった 19名 (回答なし1名)

「障がい等がある方の読書支援を考える」 (アンケート報告)

よくわかった 20名



<講演の感想>

▷2024ねんどもかいさいいたします

▷初めて図書館で障がい者サービスを聞きました。すごいことだと思い、もっと広げていきたいと思いました。

▷幅広いサービスの種類に驚きました。サービスの有無を確認するのではなく、困りごとを一緒に考えてもらうというスタンスは大切だなと思いました。

▷図書館がいろいろすすめていこうとされていることがわかりました。

▷ながれや仕組みがよくわかった。UDトークやAI音声など今後出てくると思うが対面も大切だと思う。

▷いろいろな障がい者に対応したバリアフリー図書があるのにはおどろきました。

▷色々なサービスをされているのがよくわかりました。初めて聞くことば(サービス)が多かったです。

▷図書サービスについて知ることができてよかった。

▷知らないことがたくさんあり、勉強になりました。

▷多くのボランティアさんがいらして、たくさん配慮いただいていることにおどろきました。今日は多くのことを知れて良かったです。ありがとうございました。

▷図書館の障がい者サービスが進んでいるのを知らなかったです。どこの図書館でもサービスが受けられればいいと思います。

▷“読書バリアフリー計画”初めてききました。障がいのある方にも心を豊かにしてくれる読書を楽しんでもらいたいと思いました。ぜひ周知チラシを作ってください。

▷詳しく説明をいただき、よくわかりました。

▷普段自分が図書館を利用していないので、こんなに進化しているのか、と感心した。まだまだできる事は多いようで、少しずつ実現していければ良いなと思った。

▷図書館がいろいろな工夫をされていることがわかりました。

私も本を好きになってもらいたいと思い、弊社には100冊以上の絵本を置いています。

その絵本を毎日終わりの会で読み聞かせをする他、子どもたちはちょっと落ち着きたい時に絵本コーナーで過ごすのが大好きです。絵本が大好きな子どもたちですが、図書館と言われると、静かにしないといけないところ、じっとしていないといけないところ、怒られるところと、捉えているようです。

私はこれがとても悲しいです。

休館日に予約して自由に入れるというサービスもあるとお聞きしましたので、その日に誘いたいと思いました。

<アンケート報告やグループワークについて>

▷グループワークでいろいろアイデアが出てよかったです。

▷うれしいです

▷ひとりぼっちにならないことが大切

▷もっと図書館を活用できるようになればいいと思います。

▷グループワークの時間がもう少し長く話せたら良かったと思います。

▷平生から、よく努力をしておられるのだなあと感じました。

▷図書館に対するニーズやアイデアがまだまだたくさんあり、もっと使いやすくなるのだろうと期待しています。

話し合いの中で、図書館へのアクセスがもっとしやすくなるようにバスが図書館前に停まるなどして、その情報ももっと知ってもらえるようにしたらどうかなどの意見も出ていました。

また、漢字の読み方だけではなく、意味がわかりやすいように、難しい単語や言い回しには注などがあると、もっと読みたくなるのに、という意見もありました。

<今後の地域会議や講座であつかってほしいテーマ>

▷たくさんのアイデア一つでも実現ができればと思いました。

▷障がい当事者と地域との交流の場

▷独居の高齢者が増えており、そのような方への対応をより一層進めてほしい。

▷私は初めて参加させていただいたので、今までどのようなテーマで話し合われたのかわかりません。

今までどのようなことを話し合われて、どのような内容になったのかを知りたいです。

<質問への回答> 関心を寄せて下さり、ありがとうございます。

吹田市HPで吹田市地域自立支援協議会で検索いただくと協議会の報告が載っています。吹田市内6ブロック地域会議の開催は、今年度が2年目で、千里山・佐井寺地域では、今回が3回目の開催となります。

昨年度、千里山・佐井寺地域会議では、①②のテーマで開催しました。

①障がい等がある人の災害時の避難と避難時の困りごとについて考える

危機管理室と福祉総務室の講演と「避難所で3日間過ごす特に心配なこと」アンケート報告を行いました。

「個々の備え」「避難のための準備」「避難所での合理的配慮」「備えや共助で解決が難しいことの把握と対応検討」環境や情報及び配慮、医療等の避難課題が明らかになりました。

②障がい等がある人の日中活動の場の紹介と地域とのつながりについて考える

地域にある通所系の事業所・内容を初めて知る機会となった参加者が多数おられました。地域との交流機会づくりにも積極的な意見がいただけ、引きこもりの考え方や支援の実態、8050問題への関心の高さがアンケートより伺えました。

次回地域会議は令和6年（2024年）2月20日（火）14：00～16：00千里山コミュニティセンター

テーマ：障がいインクルーシブ防災「どんな風に備える？障がい等がある人の防災」（検討中）

ご多忙中とは存じますが、次回も参加の程、どうぞよろしく願いいたします。